

第5回福崎町総合教育会議会議録

開催日時 平成28年12月1日(木) 13時30分～14時52分
開催場所 福崎町役場 2階 大会議室
出席委員 福崎町長 橋本省三
福崎町教育委員会 教育長 高寄十郎
教育委員 石川 治、桑谷祐顕、谷口喜久美、西井裕子
事務局 福崎町教育委員会学校教育課長 岩木秀人、社会教育課長 大塚久典、
学校教育課主査 宮本江利子
傍聴人 なし
オブザーバー 福崎町総務課長 山下健介

(司会) 学校教育課長 (議事進行) 橋本町長

1、開会

2、あいさつ

橋本省三町長からあいさつがありました。

(橋本町長) お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。西井裕子新教育委員をお迎えして開催する第5回総合教育会議は、本年度の第2回目ということになります。11月15・16・17日と上京させていただき、16日は全国町村大会に出席させていただきました。1億総活躍社会という中で、とりわけ地方創生については、自助・共助の観点、共助がなくて自助のみという中、今からは地方の時代だ、と。国を変えていくのは町村から変えていくというようなことが言われています。当然、一番厳しいのは財政構造です。経済は、今若干右肩下がり、個人消費も冷え込んでおり、それらが国における当初予算、又は福崎町における当初予算に影響を与えることは免れません。しかし、そういった中におきましても、福崎町にとりましては、第5次総合計画に照らしあわせた中で、JR福崎駅周辺整備など、少子高齢・人口減少時代に則した形の中での取り組み、また、安全安心のまちづくりへの取り組み、さらに冒頭で申し上げました地方創生への取り組みをしていきたいと考えています。いずれにしても、学校教育における分野、社会教育における分野、これら全体を通しての生涯学習の必要性というのは、まさしく今言われているとおりであり、それらに組み込んでいくための本質の総合教育会議であってほしいと思います。忌憚のないご意見をお願いいたしまして、冒頭のあいさつに変えさせていただきます。本日はまことにご苦勞様でございます。

(事務局) ありがとうございます。本日の会議はあらかじめ配布させていただいております、「第5次福崎町総合教育会議次第」と表紙に記載されている資料に基づき進めさせていただきます。お手元にごございますでしょうか。表紙を1枚めくっていただきますと、表紙の裏、P1、総合教育会議の名簿をつけさせていただいております。なお、本日、オブザーバーとして、総務課長山下健介様にご参加いただいております。よろしく願いいたします。

3、議事録署名人の指名

本会の署名委員として橋本町長から谷口委員・西井委員を指名しました。

4、協議、調整事項

- ・平成28年度主要事業報告及び平成29年度以降の事業計画（案）について（教育委員会関係）
- ・意見交換

（橋本町長） それでは、次第の4番目、協議、調整事項に入っていきたいと思います。

「平成28年度主要事業報告及び平成29年度以降の事業計画（案）について」、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局） 資料の3ページをお開きいただきたいと思います。資料の3ページ「1 平成28年度主要事業報告」としております。「1 就学前教育・保育」「2 子育て支援」としてあります。2の「2）学童保育園の運営」について、開園時間を昨年度までは午後6時までとしておりましたところ、今年度から午後7時までと4月1日から1時間延長して運営しております。保護者から要望いただいておりますものに対応したものです。「3 学校教育」におきましては、「2）小中学校における体験学習事業」というところ、項目の5つめにASハリマアルビオンによるサッカー教室と挙げさせて頂いております。現在、女子なでしこリーグ2部の女子サッカーチームASハリマアルビオンさんが、昨年度からお話しさせていただいております中で、平成29年1月19日に町内の小学校4校でサッカー教室を開いていただける方向となっているところなので、挙げさせて頂いております。「3）国際教育推進事業」「4）学校給食共同調理事業」「5）学校教育施設改修事業」、こちらでは小中学校6校の職員トイレを男女1基ずつ、洋式化工事が完了しております。これにより、小中学校の各フロアに男女1カ所ずつは洋式便器が整備できたという状態になりました。4は社会教育になります。

（事務局） 失礼いたします。社会教育課の平成28年度主要事業報告をさせていただきます。まず、「1）文化講演会」は、町制60周年記念とし、例年より多くの予算をいただくことができましたので、教育評論家の尾木直樹氏をお招きし、10月29日、秋祭り1日目に開催をいたしました。当日は多くの立ち見客が出る程の大盛況となりました。「2）柳田國男・松岡家記念館事業」としましては、「井上通泰展～歌を詠み愛した眼科医～」と題した記念展を開催。また、今年で3回目となります。柳田國男検定をおこないました。今年の上級試験も実施し、上級検定最高得点の方に遠野の旅を進呈いたしました。「3）三木家住宅主屋公開準備事業」は、来年4月の公開に向け、展示ケース等の備品を順次そろえていっているところです。また、パンフレット等も今年度中に作成いたします。「4）スポーツ教室開催事業」は、昨年オープンした、さるびあドームを活用するため、スケートボード初心者講習会を開催いたしました。また、2月には、ヴィッセル神戸サッカークリニックを開催する予定です。「5）その他」としまして、今年度は、社会教育施設の改修にも大きく予算をいただき工事をおこなっております。第一体育館耐震改修工事は、メインの耐震ブレースの設置、また、基礎・駆体関係は、ほぼ完了し、内部工事にかかっている状態です。70%の進捗率となっており、1月10日のオープンを目標に工事をおこなっております。緊急防災施設造成工事は、コンクリート擁壁、側溝等の構造物は、ほぼ完成しております。進捗率は、60%となっております。学問成就の道整備工事は、11月18日に現場は完成いたしました。23日の歩こう大会では、多くの参加者に歩いていただきました。文化センタートイレ洋式化工事は、1階部分は完成し、供用を開始しており、現在2階部分の着手をしております。進捗率は、65%です。八千種研修センタートイレ洋式化は、昨年1階の改修は終わり、今年度は2階の改修をおこなっております。工事も順調で、今週中には完成すると聞いております。エルデホールは、開館から23年を経過し、設備の老朽化が進んでおります。今年度から3年計画で音

響設備の更新をしております。社会教育課からは以上です。

(事務局) 続きまして、4ページの中段からになります。「2. 平成29年度以降の事業計画(案)」としているところです。4ページの下の方、「3 学校教育」「1) 小中学校における不登校・学習支援対策」の一番最後、スクールソーシャルワーカー配置と掲げさせて頂いております。こちらにつきましては、学校でおきている児童生徒の問題・課題が複雑化・多様化し、学校だけでは解決困難な事案も発生してきているという中で、福祉の専門的な立場の方を兵庫県教育委員会が平成31年度までに全中学校区に1人配置する、と打ち出し、新聞報道等でも出されているところです。県の1/3の補助をいただけるもので、平成29年度はまず1名の配置を検討していきたいと考えているものです。次、5ページをお開きください。「5) 小中学校パソコン等更新事業」と挙げさせて頂いております。その下に3つの項目を挙げております。大きく分けて3つからなっています。1つめは小中学校教育用・学校事務用パソコン更新です。児童生徒用と教師用のパソコンという形になります。2点目は、教育委員会センターサーバ更新。それらパソコンを有効に活用するため、サーバというものが必要ですが、パソコンと同じく、それらも年数が経過すると更新する必要があるものです。3点目は、校務支援ソフト導入。こちらは現在はないものですが、学校業務の改善を図っていくこと、合理化を図っていくために全国的に校務支援ソフトというものの導入がはじまっています。本町におきましても、導入を検討していきたいというものです。「6) 学校施設長寿命化計画策定事業」、こちらは、公共施設等総合管理計画というものを町長部局のほうで町全体の公共施設について今年度策定予定です。それを上位計画として学校施設の長寿命化計画を平成32年度までに策定するようにと文部科学省から指導がでているものです。本町におきましては、できればできるだけ早く計画を策定して、小中学校の修繕を補助金をいただいて着手していきたいと考えています。「7) 給食共同調理センター業務委託事業」、現職員の退職時期等を勘案し、調理業務等を民間委託しようというものです。これから6年間の間に現在調理に従事している職員の退職が続きますので、その機に民間委託を行おうというものです。平成30年度の委託にむけて検討をすすめてまいります。学校教育は以上です。

(事務局) つづきまして社会教育課です。平成29年度の主な事業(案)としましては、まず、「1) 三木家住宅主屋公開記念事業」です。講演会、演奏会、講習会等、様々な記念イベントを開催し、公開を盛り上げてまいります。また、資料整理事業として、民具・文書の整理をしていく予定です。「2」、今年度 旧郵便局の解体保存を、まちづくり課でおこなってもらっています。解体工事は無事終わり、現在は更地になっております。未改修の西面が見える状態になっておりますので、ラッピング看板で、跡地の仮囲いを考えております。「3」、歴史民俗資料館は、来年昭和56年の移築から35年目となりますので、記念事業を予定しております。内容は現在検討中です。「4) 辻川界隈関連グッズ開発」としまして、五兄弟・歴民35周年記念グッズを作成予定です。「5」は、記念館の多言語パンフレット、今年度は、英語版を作成しますので、来年は中国語の作成を検討しております。「6) 神崎郡人権教育研究協議会」の事務局が来年、福崎町となります。それにより、8月の神人教研究大会、11月頃の人権教育実践発表会等は、当町での開催となります。「7」、社会教育施設改修としまして、エルデホールの音響更新2年目、文化センターでも緊急で直さなければならないところがあればまた予算要望してまいりたいと考えています。社会教育課からは以上です。

(橋本町長) 平成28年度の主要事業報告と平成29年度以降の事業計画(案)について、事務局から説明がありました。これは分けての方がいいですね。まずは、平成28年度主要事業報告です。これらについては、もう久しく4月の開所当時から対応している分野や新しい分野が出ております。まず1点目の就学前教育・保育に関する分野で何かありますでしょうか。2) 学童保育園の運営が1時間延長され、開園が午

後7時までになったことで、働くお母さん方を中心に好評をいただいているところです。

(高寄教育長) 幼稚園ができて今年で2年目です。福崎町では10年くらい前からこうなることを想定して幼保連携施設を作っていただき取り組んでいただきました。その結果、スムーズに大過なくこれだと思っています。特に私立2園も同一步調をとってくださっているということもあり、おそらく県下的にもこういうすばらしい状況で就学前保育・教育ができているところは少ないのではないかと自負しています。そういう意味において、町当局の先見の明があったということで、私が教育長になる前から着々と準備を進められ、それが今、花が咲いていると思っています。そのような中で、就学前保育・教育に期待される部分が多くあり、特に保育の分野で今年は1歳児の入園希望が多くありまして、私共も定員を精一杯拡大して受入を試みましたが、どうしても1人だけ定員を超えてお受けするすることができず、抽選をしたということが起こりました。特に最近では、0歳・1歳児の保育の要望が多いです。その分野は児童・園児数3人で先生1人というような形で対応しなければなりませんので、先生の数がどんどん要るということになります。それからやはり、小さい子どもですから、1つの教室で2グループに分けるくらいならできますが、3グループも4グループもに分けての保育はできませんし、今後施設のこと等も考えていかなければいけないというようなことが今年1年で感じたことでした。

(橋本町長) ありがとうございます。1歳児の保育要望が多かったのは地区でいうと田原地区であったかと思いますが、1名オーバーということで、これらについては所管の総務文教常任委員会にも報告させていただき、これらについての対応の在り方もご報告させていただいております。そのような中で、女性委員会等において、駐車場が狭い幼保一体化施設があるということも言われておりまして、MAXで考えていくのか、それともその中で考えていくのかということもあり、そのあたりの難しさが見えてくるところです。また、学童保育についても好評ですし、放課後子ども教室についても田原小学校・八千種小学校の教室で実施しているし、塾に行くのではなく子どもに対応できるようなことを教育委員会のほうでも整えていただき、学校でも頑張っていたということですから、それらについても評価に値するのではないかと考えています。

(高寄教育長) もう1つ、今年から3年かけて福崎町では行政懇談会ということで、町長・副町長らとで町内の各自治会をまわって行政相談や要望をお聞きしています。今までのところ教育問題としては、地域から1件だけ要望がありました。それは東大貫から就学前の1号認定、幼稚園部を14:00までにしてほしいというものでした。それは、今まで幼稚園は14:00までにしていたので、そういう要望があったのですが、もちろん国の就学前教育の標準時間4時間は福崎町は現在もクリアしているわけで、それ以上になるのですが、実は13:30に時間を決めるのには、園長会やいろいろなところで相談してきました。その中で、1号認定を3歳までにおろしました。それは教育委員会でも教育を3歳からにしてほしいという要望も非常に強く、私たち教育委員の願いが叶った部分です。ところが3歳・4歳の子どもを14:00まで預かると、子どもが寝てしまいます。体力的な問題がありますし、同じ年齢の2号認定の保育所部の子ども3歳・4歳の子はもう午睡に入っています。ですから、14:00までというのは、子どもの体力などを考えた場合には、無理であろうと。また、お迎えの保護者も寝ている子どもを起こして連れて帰るとするのは親の気持ちもつらいであろうというようなことを総合的に判断して13:30にさせていただいております。そういう報告を課長からしていただきましたところ、それに対して再質問はありませんでしたので、理解していただけたのではないかと思います。いまのところ、自治会懇談会で質問がでてきたのは、教育関係ではこれだけだと報告しておきます。

(橋本町長) 幼保連携施設、また就学前教育を3歳児から、そして0歳児保育について

の全町での取り組みは、兵庫県下12町あってもおそらく福崎町だけだと思います。市を入れても多分福崎町だけだと思います。それらについては、一定の評価はされているのではないのでしょうか。

(委員) それは他市町では園があっても足並みがそろっていないということでしょうか。(橋本町長) やはり施設の必要性にせまられるということです。たとえば小野市の場合、小中一貫教育といわれていますが、これは施設が違っていても校区が一緒でありさえすればできます。しかし、幼保連携の幼保一体化施設そのものをもっているという形は、福崎町の取り組みが早かったということだと思います。まずは福崎保育所と福崎南保育所について、福崎保育所を建て替えなければならないというときの緊急かつやむをえない措置として、福崎南保育所と連携をとりながら今の福崎幼稚園のところに付けていった、というのが一番最初の考え方でした。そのときには幼稚園の北側に保育所とするのか、それとも幼稚園の西へそのままつけたほうがいいのか。そのときに西へ付けていって敷地をある程度確保しながら駐車場をとってこうという考え方を持ったのですが、当時の教育委員会は割と計画が小さかったのです。そこで私が言っていたのは、「福崎町の教育施設は、他に類しないくらい大きいのが福崎町の特徴なのです。私はそれ以上は言えませんが」と申し上げておりました。当時からきちんと敷地をとっておればもう少し考え方が違っていただいていたのではないかと気がしています。福崎幼稚園だけが少し残念です。あとは全部私も確認しました。小野市は子ども教育や保育には蓬萊市長さんの考え方がだいぶ入ってきているところがあります。蓬萊市長は民間から入られた方で、行政畑には初めはあまり明るくなかったのですが、住民さんの意向だけはよく聞いておられました。それと、自治大の同級生が今副市長をしておられます。彼も私のところにこういうことはよく聞きに来ております。

(高寄教育長) 小野市は教育分野がかなり進んでいるといいましょうか、前進的な取り組みをされています。私たち福崎町教育委員会も4年前、河合中学校に行かせて頂き、授業を見せて頂いたり、小野市の取り組みを研修させていただきました。その後も4月に町の教職員集会もやっておりますが、小野市へ行った次の年、河合中の校長先生が退職されたので来ていただいて、小野市のようなすを講演頂いたり、今年の夏休みにも神崎郡の40歳以上の教員を集め小野市の教育委員会から小野市の様子を聴かせて頂いたり、小野市の先行事例を私たちも勉強させて頂きながら小野市と同じようにはできませんが、いいところを取り入れて、福崎町の教育に取り組んでいるのではないかと思います。

(委員) 次の計画案にもかかわるのかもしれませんが、先ほど教育長が言われたように、幼保推進一体化の計画をこの町はずっと立ててきて、この成果を実現したというところにたつて、将来ここから先の10年の展望をどういう形にするのか、それは総合計画とかいろいろあるのですが、現実問題として、定員の入らない今のような子どもたちが、住民が異動することによって福崎町はいいぞというところを目指しているのでしょうか、キャパがこれだから入れないと断らなければいけないというのは問題ですし、もう一つは、それに関連して例えば私は高岡にいますが、幼保の施設によれば空いているところもあるぞ、ということをも町として推奨していくのか、それは教育委員会でもう一度考え直しなさいとおっしゃるのか、それとも町自体はどういう方向を向いておられるのか、いまからそろそろ考えておかなければいけない。もちろん考えておられるのですが、そういうところを町長からお考えをお聞かせいただきたい。

(橋本町長) まず、働くお母さん方、基本的にはお母さん方が働き手であるというのは国も地方もそう思っており、そのための施策、まずは国の方が動いているのは、扶養控除の関係。その中で最終的には150万という認定部分がでてくるし、扶養手当の関係についてもお母さん方が今13,000円が半額の6,500円になる。第1子・

第2子の子どもさん方の6,500円は反対に上がってくると。要は2人以上の子どもさんがあれば扶養手当の所得があがってくる、という形になっておりますし、そういう関係を含めると税対策にもなっているところがあります。お母さん方は一定の子育てが終わると働き手として、また結婚して子どもを産んだとしても子育ての中で支援を受けた中でまた働き手として社会活動にいそしんでいきたいという女性の方が非常に多いと聞きます。男女共同参画の計画の中にもありますように、そういう状況ですし、当然就職活動を含めた中でそういう時代をむかえています。それらを含めた中で実は就学前教育と保育の兼ね合いについては、少し考え方がかわってくると思います。保育というのは、私の認識ですが校区は全く関係ない、働くお母さん方に合わせた形の中で保育の受入れをします。行政界も全く関係ない中での取り組みと思っています。それらを含めると、私も背景に工業団地・企業団地がありますが、この中でそういう働くお母さんが非常に多くなってきました。そのためにも企業は駐車場の必要性にせまられてきました。企業用地が非常に手狭になってきました。明日、産業労働部長と出合ってその話を詰めていきたいと思います。1回2回で済むような話ではありませんので、部長と話をしながら県知事や副知事につないでいくということになるかと思っています。その中で今現在は、さきほど教育長が言われましたように、その地区、その校区校区に固執されなければ今の施設でキャパとしてはあるという認識を持っていますので、そのあたりは流動的な形の中での対応をお願いしていきたいと思います。ただ、あくまでも限定されますように田原地区のように新しい開発地区ができるとすぐにうまってしまう子どももできてくるという中で、先ほど言ったようにキャパが足りないというところについては、そういうことに合わせた形の中で施設整備をしていかなければいけないのではないかと思います。たまたまそこは空きスペースがありますのでそういうものを活用しながら、また第2グラウンドとしての位置付けは別の地域で求めていくということもできるのではないかと思います。工業団地・企業団地のほうからは、働くお母さん方はアルバイトであれパートであれ、どういった形でも車1台で1人なので、どうしても駐車場の必要性がでてきますということです。それには公共交通対策をまだまだ考えていかなければならないのかと思います。今、まちなか便と郊外便という形で公共交通会議に諮りながら運用させていただいておりますが、それらももっと工業団地・企業団地をまわりながらそういう形を整えることができないかと考えています。たまたま社会実験で国の補助金をいただきながらやっているものがあります。それらを新たな分野で補助を求めながら方策をかかげていきたいと考えています。

(高寄教育長) いま国や県や福崎町もそうですが、子育て支援を非常に重要な課題として取り組んでいます。そして人々の要望に応えられるように町も全力でやって頂いております。いま桑谷委員がおっしゃったように、10年先・15年先を考えたときに、施設はどんどんいいのを建てて大きくしたが、少子化の影響が10年先・15年先にどうでるのかということを考えなければならないと思います。いまより子どもの数が増えるのは考えにくいかと。私たちはいま増やしていただくことと福崎町の取り組みを考えていますが。それと、もう一つはこれはまだ町長にはお話ししていませんが、事務局の出し合い話の中で、駅前再開発にからめて、いま町長がお話しされた工業団地へのバス輸送も考えていく中で、例えば駅前再開発のどこかの建物の中に、福崎幼稚園の分園のようなものをつくり、「保育専門3歳児まで」のようなことをやって、お母さん方が電車に来て駅前の保育所へ子ども預けてバスで工業団地まで行く、帰りはまたバスで福崎駅前まで帰ってきて、そこで子どもを引き取って電車で帰って行く。そういうことも一つのアイデアといいますか、あるのではないかと話したりしています。それは決して私たちだけでできることではありませんし、みなさんがどうお考えになるのかで影響はありますが、私たちなりに今を、将来を、子育てをどうしていくのかという話し合いはしています。

(橋本町長) いま教育長が言われたように、年齢別人口を見てみますと、昭和40年には4,250人、14歳未満の子がいました。現在は、平成27年度で2,700人です。構造としては、昭和40年は総人口16,300人、50年前です。それが昭和50年には17,600人。それがもう10年たって昭和60年になると18,700人というように、1,000人、1,000人というような増え方をしてきました。そして19,000人になってここ20年くらいはずっと19,000人代後半で推移しているというのが福崎町の人口の在り方です。ただし、年少人口と高齢人口は逆転してきました。65歳以上の高齢者人口は27.3%で、4人に1人よりも多いという状況です。もう30%に近くなってしまっているのではないかと、50%を超える集落が結構たくさんできてきて、限界集落に近いようなところもでてくるのではないかと考えています。いま教育長の言われるようなこともあるのかもしれませんが、ただ、私ども、駅周辺整備については、一つはやはり公共交通の結節点としての位置づけをきちんとしてまいらねばならないということと、訪れやすく住みやすい町、福崎にまいらねばならないというバランスのとれた中で住みよさを求めるという中でまちづくりをしていきたいということで対応させていただいているところです。もうみなさま方ご承知とおもいますが、この中島井ノ口線が全線開通して、ボックスから南側ですが、中島井ノ口線の西側の土地は都市計画区域内における調整区域で、東側が市街化区域となっています。道路一本についても用途地域の違いによって開発状況が全然変わってきます。撤退しなければならない業者もあれば進出したい業者もあります。福崎町は非常にそういう展開が早い状態です。車の混雑がまたでてくるのではないかと非常に心配しているところです。まちづくりに対するその取り組みの在り方というところでしょうか。大型量販店が出てきてくれるのは住民さんにとってはうれしいですし、行政にとってもありがたいでしょうけれども、やはり地元企業の育成という観点からいきますと、商工業についてはやはり商工会と歩調を合わせなければならないのは言うまでもないことです。産業的にも商工会の育成の観点を含め、「なっ得商品券」でありますとか、産業活性化補助事業、いわゆる町内事業所を使った中で家を少し改修したりすることについては、補助金定額で最高80,000円まで支給できるという要綱ももっておりますし、それらは産業の中における非常に大きなウエイトをしめるということになっています。桑谷委員さんの質問に対する答弁にはなっていないかもしれませんが、10年先を見据えた形の中では、当然働くところがあって住みやすい場所がある、バランスのとれた町でありたいと思います。欲ですが。反対に、神河・市川は、ここ10年20年で5,000人ずつ人口を減らしています。姫路市北部から含めてみますと、福崎の一人勝ちという状況です。香寺町も20,000人あったのが合併して、団塊の世代を含めて三世代の家がないという中で、開発地はみんな二世代ですから、夢前も同じですが、そういう意味では人口が減少しています。反対に就労人口を確保するということが今度は行政に求められてくるのではないかと考えます。次に学校教育に移らせて頂きます。学校教育につきましては、これは教育長との約束ではありませんが、発達障害等の子どもが非常に増えてきたという中で、スクールカウンセラー等を配置できるよう、できるだけ予算的な配分は行っていこうという中で、学校運営の中では一定の評価を受けられるくらい予算的には出していると思いますが、教育委員会部局・学校教育課のほうからみればまだまだ足りないということになっているのではないかと考えます。これも平成29年度の事業計画と合わせて、スクールソーシャルワーカーの配置などもいわれておまして、低学年からの対応が求められているというところだと思います。ある地区では、発達障害的な子どもが多いのか、やはり保育所・幼稚園時代からそういったようなざわつきのある学年は、ずっと小学校高学年になっても同じような状態が続いているというようなことも聞いておまして、そのあたりも含め、対応の在り方等も今後は考えていかなければならないのかなと考えています。

(高寄教育長) 学校教育の分野においては、私は本当に今は安定・安心の状況にあらうかと思っています。恥ずかしながら、私が校長をしていた時代とは雲泥の差がありまして、昔の福崎町の教育がよみがえったと安心しています。その一つには、「中学校改革は中学校にあらず、小学校にあり」ということで、小学校にかなりてこ入れをしてきたことで、そこで育った子どもたちが安定した状況で中学校に進級してくれて、中学校が落ち着いてきたというふうに思っています。それには、地域のボランティアが地域を挙げて後押しをしてくださったこともありますし、町からも不登校指導員や学習支援員を町費でたくさんの人を派遣していただいたということも大きく影響していると思っています。おかげさまで去年ほどではありませんでしたが、今年も全国学力・学習状況調査で中学校は全国トップクラス、小学校も全国水準を上回りました。そういう落ち着いた状況の中で福崎町の教育があるのがありがたいことです。私が一番うれしいのは、「命に勝る宝なし」ということずっと言っていますが、今年も今のところ、福崎の子どもたちが1人も事故にあったり、残念な結果で命を落とすというようなことが起きてないということは、嬉しく思っています。ただ、病気で心配している子が数名いるということも事実ですが、事故や事件でそういうことはありませんでした。

(橋本町長) あと、ハリマアルビオンによるサッカー教室についてもやっていただくということですが、ハリマアルビオンは女子の2部リーグで、今年は少し成績が落ちて7位です。MFの千葉選手が全国の代表で、ハリマアルビオンから1部リーグのチームへ移籍するのではないかとわれていたようですが、残留してくれるということになったとも聞きましたので、今後の展開にも期待が持てるのではないのでしょうか。トイレ改修等については、社会教育施設も学校教育施設についても、順次改修をさせていただいているところです。これら教育委員会要望については、順次計画をたててさせていただきます。あと、社会教育課ですが、町制60周年記念事業ということで、秋祭りの文化講演会に尾木ママこと尾木直樹氏を招いて非常に盛況であったということです。開演1時間前から多くの方が並ばれていて、私どもも最初は席に座っていたのですが、座っておれないような状況になったので、舞台の袖からのぞかせていただきました。尾木さんはテレビのままでして、それだけに私自身は聞いていないのですが、尾木さんで文化講演会の内容は本当によかったのかと疑問符をもっておられる方もおられたということです。講演としてはよかったけど、文化教育講演にはなっていないのご意見です。それと、今年は井上通泰先生の生誕150年ということもあり、記念館で関連した事業を展開していただき、岩手県遠野市との関係の中では、松岡家の五兄弟の顕彰の意味合いを含めて、柳田國男先生や井上通泰先生の顕彰を展開していただきました。やはり岩手県遠野市における柳田先生の位置づけは全然違ったもので、ただ単なる「『遠野物語』の作者」ということではなく、「遠野」という地方を全国版にしてくれたということで、市を、市民をあげての顕彰がそこからでているという感触を覚えました。それと、民生まれづくり常任委員会が岩手県遠野市に10月の祭り明けの週に行かれたと思いますが、そのときに、柳田國男検定の上級最高得点者の方が行かれていて、お出会いなされたとお聞きしました。社会教育施設、第一体育館耐震工事については、役場庁舎も同じですが、ブレースを入れたりしていますが、今は内部工事に入っており、広報にもありましたとおり1月10日にはオープンします。また、体育館の東、いま造成をしています。あれは緊急防災減災事業として対応させていただいております。実は、土地の買い取りは基金で求めており、この度買い取りの予算組みをさせていただきました。そこへ防災倉庫を建てます。これらについては地方債100%ですが、交付税70%算入されるということで、70%の補助金をいただいたのと同じような状況で工事をしていただくこととなります。学問成就の道は、辻川山の鈴の森神社の横から辻川山へ登って行って北野天満神社へ行くのですが、ここは全部できあがりしました。この前行ったら、ちゃんとカラー舗装も

できていました。しかし、あの両脇がなんとかならないものかとずっと思っています。見晴らしのいいところですし、都会の女性がかかとの高い靴でも上られるような山です。登りやすいと思います。文化センターのトイレ改修は、お礼の電話がかかってきました。歩こう大会ですが、今年は東コース、風が強かったんですが、1, 4 1 4 人に参加いただきました。非常に多くの方に参加いただき、参加賞が少し足りなくて、後から補いますということになっているようです。そういうことも、大変ありがたいことだと思っています。冒頭挨拶にも言いましたように、教育の分野の中でも地方創生が活きてきて、地方活性化交付金事業等、創意工夫でもって教育にも予算が獲得できるということにもなっていますので、教育委員さんからも忌憚のないご意見をどんどん出していただいて、福崎町教育が前に行くようにしていただければありがたいなと思います。あと平成28年度の報告でこれだけは聞いておきたいということはないでしょうか。

(高寄教育長) トイレのことですが、学校もそうですし、この文化センター等文化施設もそうですが、町のご理解により、トイレの洋式化が進んで、非常に明るい展望のある文化施設に変わってきているのかなと思います。辻川山周辺についても、町長の骨折りで三木家の東側の土地も町で購入していただきましたし、そういう意味で辻川山も次の利用を考えなければならないところに来ているのかなと思います。もちろん、民間のご協力もありましたし、地域振興課の天狗や河童もあります。本来はあのあたりは社会教育課が地盤としていた地域ですが、やはりこれからの時代はお互いが切磋琢磨するといいますか、協力をし合いながら福崎町の良さをあの地域で発信していく、そのために教育委員会もまた次の施策を考えていかなければならないのではないかなと思っています。

(橋本町長) 教育長がよく「不易と流行」という言葉を使われますが、辻川界限は「不易と流行」で、柳田國男先生の妖怪をくんだ中で、あの妖怪ブームができてきたわけですが、そこへもってきて福崎町の特産品である「もち麦」が、非常に栄養価が高い、食物繊維が多いと全国ネットでテレビに流していただいたこともあり、非常に好評な推移をしています。一つは私が社長をしています、もちむぎ食品センターの利益があがってきているということになっており、今年採れた28年産のもち麦の面積が40haでした。来年の6月に採れるもち麦が50haです。いつときは全然売れなくて、在庫だらけで、つくらない年があってもいいのではという話もしております、一番最低のときは10haでしたが、今ではその5倍の50haとなっています。ただ、このもち麦もいろいろな品種があり、その中で論議がまたでてくるのではないかなと思います。今つくっているのは「米澤モチ2号」といい、人の名前がついています。

今度は「四国裸糯136号」、これがより一層栄養価が高いとなっております。国・県を挙げた中で、福崎町が手を挙げなければこれらについては一般開放しますよといわれており、「米澤モチ2号」と「四国裸糯136号」と両方あわせて今後は展開を図っていくこととなります。もちむぎ麵については「米澤モチ2号」、もちむぎ精麦については「四国裸糯136号」に置き換えをしていくというような形で進めていこうと思っています。福崎町産のもち麦が一番くせがないということで、四国愛媛県でもたくさん作られておりますが、今からは小麦が大麦に変わろうとしており、TPPの関連を含んだ中での第一次産業の在り方もこれからはひとつの見方になってくるのではと思っています。子どもたちにも農業に親しんでもらえるような環境ももっておかけなければならないのかなと思っていますし、そのためには小さいときから若干でもいいので、田んぼの土に親しんでいればまた取扱いもかわってくるのではないかなと思っています。あと、29年度以降の事業計画(案)について、さきほどから一緒に入りこんでおりますが、学校教育においては、全中学校区における福祉の専門家配置「スクールソーシャルワーカー」において、県補助金は1/3ですか。

(事務局) はい。

(橋本町長) 2/3は一般財源ですね。ただ、この方が配置されたとしても囑託もしく

は臨時職員ということになってしまうのではないのでしょうか。県補助金の1/3は使用した経費の1/3ではなく上限があるのでしょうか。

(事務局) はい。

(高寄教育長) 週8時間ですから、1日2時間もいかないくらいです。

(橋本町長) 1時間半でしょうか。

(委員) フルタイムでの配置ではなく週8時間だけですか。

(高寄教育長) はい。スクールソーシャルワーカーは子どもたちの精神的な面の相談に役立てようということなのですが、ちょっと今心配していることが実はあります。最初の28年度主要事業報告のところでも町の方から介助員や学習支援員をたくさんつけていただけるからいい方向へ行っているとお礼をこめてお話しをしましたが、来年度もっと人が必要になりそうな気がします。といいますのも、福崎小学校では来年1年生になるのが84人ですが、そのうちの10人が特別支援学級を希望されています。1割以上が特別支援学級です。田原小は82人。来年初めて福崎と田原の逆転が起こるのですが、田原も82人のうち7人が特別支援学級へ入りたいということです。12月15日に教育支援委員会でお医者さん方の意見を聞いて、特別支援学級入級がいのかという相談をして、県へ働きかけをします。しかも、特別支援学級に入りたいという子どもさんの中で、ほとんどが肢体不自由・知的障害というよりは情緒障害のほうなので、多動性のある子どもたちが増えてきたということです。その子どもたちが教室の中でみんなと同じように授業を受けていこうかと思えば、それに対する支援・介助が必要になってきます。いま小学校の校長先生方がそこを一番苦しんでいます。教育委員会はどこまでお手伝いができるかということにかかってくるのですが、そういう現状が目の前にぶらさがっているということで、こういう傾向は福崎町だけではなく、全国的な傾向にはあります。もう一つは、逆の発想でいえば、人権感覚が豊かになってきているのではないかと思います。例えば、昔であれば、特別支援学級に入るとなれば、地域の人から冷たい目で見られる、違う目でみられるということがあるから、みんなと同じ教室においてくれという傾向が強かったのですが、ここへきて、そうではなく、子ども子どもに応じた教育を受けさせてやりたいといひましようか、障害を認める保護者が増えてこられたというのは、考え方によればいい傾向かとも思います。しかし、一人一人の子どもを大切にすることは重々わかっているのですが、本当に一人一人の子どもに納得のいく支援ができるかといえば、やはり財政的なこともありますので、非常に苦しいということでもいま葛藤しているという状況です。私も教育長としては教育委員会側でいろいろ言いたいところですが、町としては三役でもありますので、町全体のことも考えてと言わざるをえないところです。

(橋本町長) 小中学校のパソコン等の更新ということで、今のパソコンは何年度に導入しましたか。

(事務局) 平成21年度です。

(橋本町長) ということは、はや丸8年が経っているということですね。

(高寄教育長) 当時としては郡内で先端をいっていたと思うのですが、いまは他町に追い抜かれてしまいました。

(橋本町長) 市川町が全然やっていなかったもので、対応できなくなってしまって、更新せざるをえなかったということで、うちは先にやっていたということだったと思います。いろいろなソフトがはいってくるので、サーバの必要性もでてくると思っています。あと、長寿命化計画であります。これは学校教育施設だけではなく社会教育施設も全く一緒でありまして、これらは総合管理計画をたてなければいけないということについては、長寿命化計画にのせておかなければ、これらの対応はしていただけません。義務という中で作っておかなければ、補助事業の採択はありえませんがということ。本来ならばもう今頃には教育委員さんにはお示ししておかなければいけないのですが、少し遅れているようです。実は難しいのは、土地などでも昔のままの土地があって、整理ができていないものもたくさんあります。西中は登記と地形が合うのですが、東中は全く合いません。旧態依然のままの部分があるまま残っているということだと思います。もう一度見直しをしていただかなければなりません。

施設整備した当時の書類が残っていればまた違ってくるのだと思いますが、登記とは全く違うのが現状です。「7）給食共同調理センター業務委託事業」については、行政改革という中ですぐに言われるのは、経費削減の中で安易に民間に委託するのではといわれるのですが、「民間委託」と書いてありますが完全な民間委託ではありません。センター長、事務局長、事務員、管理栄養士等については、町職員または県の職員という対応になります。あくまでも給食原材料の購入計画であるとかは全部私どもの職員がやります。調理とできた給食を各学校へ配送する部分を民間へ委託していくというものです。実はもう各学校への配送はシルバー人材センターへお願いしており、その部分がもう民間へ行っているというところです。あと、調理業務については、職員が定年退職をしますので、その調理業務にあたっている職員分は定数に関しますので、その定数を減らして、いまからもっと必要な福祉等のところに職員の配置換えを求めていかなければならないということになり、経費削減にはあまりつながっていません。今後の行政展開のための定数枠・職員枠をもっておきたいということで、こういったことについて実は私の方からそういうことで問題提起させていただき、検討を加えていただいているところです。経費削減はなく、あくまでも今後における福祉や介護等、とりわけ地域包括支援システムが平成30年度に方向性が定まり、平成37年度には各集落で構築されなければならないという中、さきほどのスクールソーシャルワーカーとか福祉の専門員や保健師等の必要性がでてきます。地域包括ケアセンター、保健センター内にありますが、そういったところの職員をふやさなければならないということがありますので、こういうことで対応していこうということなんです。定員枠を増やすことは国や県からオフリミットといわれており、非常に厳しいペナルティを科されることになりますので、そういった意味ではこういうことに求めなければならないことになります。兵庫県については、定数が平成19年度の定数を100とすると、この平成29年度で30%の削減がいま計画にあがっており、それに向けて定数がどんどん減らされています。減らし過ぎて教職や警察がちょっと足りないというような状態にもなったということで、いまは事務系統を中心とした中で、退職補充が全くなされていないという状況にいまのところはなっています。それ故に、県からは市・町の職員に求めるものは非常に厳しいものがあるということになっています。あとは、来年が神崎郡の人権教育研究協議会の事務局ということで、8月の神人教、11月の人権啓発発表会に、福崎町が事務局にならなければならないということです。エルデホールの音響更新の財源は宝くじですか。地方活性化ですか。地方創生ですか。(事務局) いえ、町単です。

(橋本町長) 町単ですか。財源をどこから求めてこないか。これはめちゃくちゃ高いですよ。

(事務局) 照明は高いですが、音響はそれほどまでではありません。

(橋本町長) 音響はどこでしたか。TOAでしたか。

(事務局) TOAです。照明は70,000千円です。一応補助に手をあげています。

(橋本町長) 当時償還20年でとりました。

(事務局) 使っているものもいい機械ばかりなので、すごく費用がかかります。

(橋本町長) ピアノもスタインウェイを入れましたし。なぜそんなにいいピアノを入れたのかという声もありましたが、プロが使うので仕方ないということでした。ピアノはスタインウェイでないと嫌う音楽家が結構多いです。

(委員) 調律も結構高いのではないですか。

(事務局) 普段の調律は20,000~30,000円ですが、それ以外にも保守が必要です。1回ごとのコンサートでは20,000~30,000円です。今は調律はユニゾンをお願いしています。太子町の会社です。

(橋本町長) それでは、28・29年度を通してなにかありますでしょうか。この「協議、調整事項」の「意見交換」についても、これ以外についてもお聞きになりたいことがあればお聞きしたいと思います。

それでは、ご意見・ご質問がないようですので、以上で協議、調整事項をおわらせていただきます。進行を事務局にお返しさせていただきます。

5、その他

(事務局) 橋本町長様、ありがとうございました。次第の5番「その他」にうつらせていただきます。1点、事務局から報告・確認をさせていただきます。会議資料の2ページでございますが、総合教育会議の開催経緯をつけさせていただいております。今年度の総合教育会議ですが、前回の会議で説明のとおり、今年度については一応今回で終了と考えています。ただし、何か突発的な事件等があれば、開催することもありますので、その旨、確認をさせていただきます。事務局からは以上です。委員のみなさまから何かあればお願いいたします。

特によろしいでしょうか。ありがとうございます。

6、閉会

(事務局) それでは次第の6番、閉会のあいさつを、高寄教育長からお願いしたいと思います。

(高寄教育長) 委員のみなさま、おつかれさまでした。町長様、お忙しい中ありがとうございました。いつも申し上げておりますように、「感謝に敵なし、反省に卒業なし」ということです。28年度にあたり、町長様始め町当局のあたたかいご支援により、福崎町の教育が前へ前へ進んでいっていること、非常に私は誇りに思っておりますし、安心もしております。本当に感謝を申し上げたいと思います。また、そういう中で、私たちも日頃から全力投球をしているわけですが、「最善の中にもまだ最善がある」という言葉もあります。いい面も悪い面も反省しながら、「ゆりかごから墓場まで」ではありませんが、若き者から老いまでを含めた福崎町民のための教育というものにこれからも取りくんでいきたいと思っています。町長といろいろお話しする中で、町長の思いとしては、町民の思いや願いは全部かなえてあげたいが、財布の中身がなければそれをかなえることができないということで、町長は何回も何回も東京まで陳情に行ってくださいしています。それも福崎町・福崎町民の発展のために心労を惜しまず日頃からご活躍いただいております。今後もお体に気を付けていただいて、福崎町民のために、福崎町の教育長の立場から言わせていただきますと、福崎町の教育のためにこれからも是非ご尽力いただきたいということで、もう一度言います。「感謝に敵なし、反省に卒業なし」。ありがとうございました。

以 上

署名委員 谷口喜久美

署名委員 西井裕子